

□総合戦略の基本目標、施策の基本的な方向及び具体的な施策案

- ◇ 前回会議の意見を整理して抽出した視点毎に、意見の内容をふまえた今後の方向性（案）、今後の取組（案）を表形式でまとめました。
- ◇ 今回の会議では、この内容を参考にしながら、以下の4項目（8頁にメモ用スペースあり）について検討を行います。
- ※ 次頁以降の内容は、具体的に計画を進めている施策案だけでなく、実現性をこれから検討するアイデアも含まれているため、今後変更になる可能性があります。

0. 資料の見方

視点毎に整理した前回会議の意見 (審議会の意見と区別するため庁内PTの意見を明朝体で表す)	今後の方向性（案） (今後の方向性の前提となる考え方を明朝体で表す)	今後の取組（案） (例示した取組案と区別するため胎内市の既存の施策を明朝体で表す)
視点①：雇用全般		
<ul style="list-style-type: none"> ▲働く場がないから若者が帰ってこない ⇒■地元出身者を優先して雇ってもらう ⇒■財政的に無理をして人口を増やすということではなく既存ストック・知恵をうまく活用 ■雇用が一番大事 ■雇用と子育て環境が居住地選択の要因 ■結婚、出産も収入（雇用）の影響が大きい ●雇用環境は恵まれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場がない／雇用環境は恵まれているという異なる認識（若者が期待するような優良な雇用が少ないことの現れか） ・大企業が立地する工業、付加価値の高い加工品の製造・販売を行う農林水産業、レジャー施設等が豊富な観光業と仕事のタネは少なくない <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○力のある市内企業や意欲を持った住民と地域・行政の協働により、産業の活性化やUターン等による優秀な人材の確保を進め、市民の生活を支える安定した雇用を創出する。 	<p style="text-align: center;">(②以降の内容で実現を目指す)</p>
視点②：工業・製造業		
<ul style="list-style-type: none"> ●大きな会社がある（クラレ、日立、JXなど） ●働き口が多い（外から通っている人もいる） ⇒■市内企業のサポートを引き続き実施する ▲企業誘致が進んでいない ▲交通アクセスが良いのに工業団地に空きがある ●航空機器メーカー（とその傘下企業）の進出が決定 ⇒■企業（特に大口の企業）の誘致を進める ⇒■リスク分散を考える企業を誘致する ⇒▲「工場誘致」言うは易しだが工場は単独では移転してこない ⇒▲来てくれるのを待っている間は間に合わない ⇒■小規模ビジネスの起業を支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業は総生産の1/3を占める主要産業である ・大企業が立地しており、働き口も多い ・一方で、工業団地には空きが多く、企業誘致が思うように進んでいない点が課題 ・企業誘致については、簡単な話ではなく雇用対策がそれ頼みになってはいけないという指摘も <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既存企業との連携や起業支援という小さな取組と、企業誘致という大きな取組の両輪によって、主要産業である工業・製造業分野の雇用拡大を図る。 	<p>＜市内企業等の振興・雇用促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業資金の融資、信用保証料の補給 ・商工業振興（プレミアム商品券） ・若者の就職と自立を支援する地域若者サポートステーションサテライトの運営 <p>○市内での就職促進のため市内企業に新規就職（常勤雇用）した市民へ助成</p> <p>○既存企業の設備投資への助成</p> <p>○既存店舗・事業所の耐震化の助成／セミナー・専門家招致等の費用の助成</p> <p>＜チャレンジ・イノベーションを生む環境づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の案を市民から公募し審査に通ったものに事業費の一部を助成 ○市内で起業・創業する人に必要な準備金の一部を助成 ○空き家を活用した店舗・事業所の開設に対する改修費用の助成 ○起業手前の小さな取組を支援する地域活性化案に対する助成制度の拡大 <p>＜企業誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致のため企業訪問、情報収集・情報発信 ・固定資産税の減免や土地取得費の助成、工業用水料金の助成等

・前回の策定審議会および庁内の地方創生プロジェクトチーム（以下「庁内PT」）で出された意見を1つにまとめ、「雇用環境」「生活環境」「子育て環境」の3つのテーマにまとめました。
(審議会での意見は丸ゴシック体、庁内PTでの意見は明朝体)

・さらに、意見の趣旨から4～6つの視点を抽出しています。
(複数のテーマ、視点にまたがるものはそれぞれの箇所に掲載)

⇒足りない視点(分野)はないか ご意見をいただきたいと考えています。

・前回会議で出された意見と、右で整理した現在の取組を参照し、何が課題となっているのか、足りないのは何かを整理しました。

・これを踏まえて今後どのような方向に進むべきかの案をまとめています。

⇒この方向性は妥当か、他に書いておくべき内容はないか ご意見をいただきたいと考えています。

・抽出した視点毎に、現在主に市が実施している取組を整理しました（明朝体）。

・真ん中の列でまとめた進むべき方向性の案を踏まえて、今後必要だと思われる取組の案を書き出しています（丸ゴシック体）。

⇒他に必要な取組はないか、やってみたい取組はないか（、あるいは不要な取組はないか）ご意見をいただきたいと考えています。

⇒全体を通して、特に良い視点／優先的に取り組むべき内容はどれか ご意見をいただきたいと考えています。
(いただいたご意見を踏まえて、計画全体の目標や施策体系の再構成について検討を行います)

1. 雇用環境に関する【視点／方向性／取組】の叩き台（①～⑤）

視点毎に整理した前回会議の意見 (審議会の意見と区別するため市内PTの意見を明朝体で表す)	今後の方向性(案) (今後の方向性の前提となる考え方を明朝体で表す)	今後の取組(案) (例示した取組案と区別するため胎内市の既存の施策を明朝体で表す)
視点①：雇用全般		
<p>▲働く場がないから若者が帰ってこない ⇒■地元出身者を優先して雇ってもらおう ⇒■財政的に無理をして人口を増やすということではなく既存ストック・知恵をうまく活用</p> <p>■雇用が一番大事 ■雇用と子育て環境が居住地選択の要因 ■結婚、出産も収入(雇用)の影響が大きい ●雇用環境は恵まれている</p>	<p>・働く場がない／雇用環境は恵まれているという異なる認識(若者が期待するような優良な雇用が少ないことの現れか) ・大企業が立地する工業、付加価値の高い加工品の製造・販売を行う農林水産業、レジャー施設等が豊富な観光業と仕事のタネは少なくない</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○力のある市内企業や意欲を持った住民と地域・行政の協働により、産業の活性化やUターン等による優秀な人材の確保を進め、市民の生活を支える安定した雇用を創出する。</p>	<p style="text-align: center;">(②以降の内容で実現を目指す)</p>
視点②：工業・製造業		
<p>●大きな会社がある(クラレ、日立、JXなど) ●働き口が多い(外から通っている人もいる) ⇒■市内企業のサポートを引き続き実施する</p> <p>▲企業誘致が進んでいない ▲交通アクセスが良いのに工業団地に空きがある ●航空機器メーカー(とその傘下企業)の進出が決定 ⇒■企業(特に大口の企業)の誘致を進める ⇒■リスク分散を考える企業を誘致する ⇒▲「工場誘致」言うは易しだが工場は単独では移転してこない ⇒▲来てくれるのを待っている間は間に合わない ⇒■小規模ビジネスの起業を支援する</p>	<p>・製造業は総生産の1/3を占める主要産業である ・大企業が立地しており、働き口も多い ・一方で、工業団地には空きが多く、企業誘致が思うように進んでいない点が課題 ・企業誘致については、簡単な話ではなく雇用対策がそれ頼みになってはいけないという指摘も</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○既存企業との連携や起業支援という小さな取組と、企業誘致という大きな取組の両輪によって、主要産業である工業・製造業分野の雇用拡大を図る。</p>	<p>＜市内企業等の振興・雇用促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業資金の融資、信用保証料の補給 ・商工業振興(プレミアム商品券) ・若者の就職と自立を支援する地域若者サポートステーションサテライトの運営 <p>○市内での就職促進のため市内企業に新規就職(常勤雇用)した市民へ助成 ○既存企業の設備投資への助成 ○既存店舗・事業所の耐震化の助成/セミナー・専門家招致等の費用の助成</p> <p>＜チャレンジ・イノベーションを生む環境づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の案を市民から公募し審査に通ったものに事業費の一部を助成 ○市内で起業・創業する人に必要な準備金の一部を助成 ○空き家を活用した店舗・事業所の開設に対する改修費用の助成 ○起業手前の小さな取組を支援する地域活性化案に対する助成制度の拡大 <p>＜企業誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致のため企業訪問、アンケート等による情報収集・情報発信 ・固定資産税の減免や用地の取得・賃借費用の助成、工業用水道料金の助成等 ・市民から新規雇用を行う市内企業に対して奨励金を交付 <p>○生活環境や子育て環境をPRして誘致を促進(→2、3参照)</p>
視点③：農林水産業		
<p>▲担い手の高齢化と後継者不足(今後20年で担い手が数十分の1に) ⇒■女性の元気で活性化を目指す ⇒■6次産業化を進める</p>	<p>・今後の存続が危ぶまれている ・一方で、付加価値の高い加工品の製造・販売、エネルギー分野の取組なども見られる ・内閣総理大臣の認定を受けた地域再生計画「薬用植物の産業化による農地再生と新産業の創出計画」に位置付けられた薬用植物に係る取組が本格化</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○6次産業化やグリーン・ツーリズムを促進して魅力的な商品開発や販路の拡大を図る攻めの戦略と、新規就農支援や農地の集約化等による高齢化対策、再生可能エネルギーの事業化という守りの戦略によって、農林水産業の強化を図る。</p>	<p>＜魅力的な商品開発や販路の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米粉、ハム・ソーセージ、乳製品、飲料水、ワイン等の製造販売 ・地域特産物(地ビール)の販路拡大 ・地域食材(米粉)を活用した商品開発、イベントの実施 ・間伐、地元産材(越後杉)を使用した住宅への助成 <p>○地域の特産品を利用した商品開発(どっこん水かき氷、胎内ジャージー牛乳を使用した石けん、ボディソープ、チューリップエキスを利用した化粧品等) ○甘草等の薬用植物を用いた新産業の開発/加工施設を建設し6次産業化を推進 ○どっこん水の利用による園芸ブランド(やわ肌ねぎ、ベにはるか等)の魅力向上 ○住民や生産者自らが商品開発や少量の加工ができるキッチン設備を地域に開設(公民館、にこ楽胎内等既存施設を活用)</p> <p>○周辺市町村からちょっとお洒落をして訪れることができる飲食業態の開発</p> <p>＜高齢化対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の効率利用(農地銀行、農地中間管理機構を通じた農地集積・集約化) ・胎内市で農業を始めたい方の就農支援や農業体験の支援を実施(就農支援窓口) <p>＜再生可能エネルギーの事業化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥センター、バイオマスセンター、小水力発電 <p>○民間企業や研究施設と連携して洋上や国有林野に風力発電施設を設置</p>

●：良い点、▲：悪い点、■：その他の意見・今後のアイディア等

視点毎に整理した前回会議の意見 (審議会の意見と区別するため庁内PTの意見を明朝体で表す)	今後の方向性(案) (今後の方向性の前提となる考え方を明朝体で表す)	今後の取組(案) (例示した取組案と区別するため胎内市の既存の施策を明朝体で表す)
視点④：観光業		
<p>●景観が良い</p> <p>●乙宝寺・城の山古墳・奥山の荘等の歴史・文化資源</p> <p>●多くの文化・教育施設や立派なレジャー施設等を擁する</p> <p>●小学生の郷土学習／農家民泊に取り組んでいる</p> <p>▲有名な観光スポットはどこか分からない</p>	<p>・豊富な歴史・文化資源やレジャー施設、これを取り巻く豊かな自然環境、優れた景観が存在する</p> <p>・しかし、外から来た人にはコレというものが見えずらい／レジャー施設の中には老朽化したものも存在する／観光業の規模はそれほど大きくない(箱物等で集めた客が収益につながっていない) という点が課題</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○豊富な観光資源を雇用拡大につなげる魅力的なパッケージの作成、オフシーズン対策、収益をあげる飲食やお土産品の開発等を進め、観光事業の活性化を図り、外貨の獲得に繋げる。</p>	<p>＜魅力的な観光パッケージの作成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新胎内温泉エリア：ロイヤル胎内パークホテル、胎内スキー場、フィッシングパーク、みゆき庵、胎内高原ビール園、青少年の森、胎内自然天文館、フラワーパーク、昆虫の家、ストーン博士の館 ・樽ヶ橋エリア：観光交流センター、河川公園、クアハウスたいない、樽ヶ橋遊園、フルーツパーク、胎内観音 ・中条エリア：城の山古墳、奥山の荘、櫛形山脈、鳥坂山城跡 ・築地エリア：塩の湯温泉、海水浴場、長池憩いの森公園、村松浜夕日の森公園、金毘羅神社 ・乙エリア：はまなすの丘、荒井浜森林公園、観光物産館、水芭蕉、乙宝寺 ・奥胎内エリア：奥胎内ヒュッテ、飯豊連峰 ・各種イベントによる観光振興(チューリップフェスティバル、胎内川新緑まつり、米粉フェスタ in たいない、胎内温泉まつり、胎内星まつり、中条まつりなど) ・着地型観光プランの作成、ボランティアガイドの育成など ・胎内型ツーリズム推進(胎内型ツーリズム推進協議会 301 人会等) <p>○チューリップフェスティバルに続く長池憩いの森公園の観光の目玉づくり(コスモスや高田公園のような水蓮等の植栽、BBQ広場の活用など)</p> <p>○塩の湯温泉の充実やカフェ、遊歩道の整備等による浜辺の賑わいづくり</p> <p>○AR(Augmented Reality: 拡張現実)技術を活用した歴史探訪プラン立ち上げ</p> <p>○施設や部署・団体を横断するイベントプログラムの企画・実施 (→「船上スターガイド」、市内ホテルでの「星とワイン会」、「出張乗馬会」など) (→その前段として担当者の交流会や横断組織の立ち上げを検討)</p> <p>○電動アシスト付き自転車を導入して回遊性を向上</p> <p>＜収益性の向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民間事業者から既存施設を活用する企画提案を公募 ○周辺市町村からちょっとお洒落をして訪れることができる飲食業態の開発(観光シーズンには観光客も利用)【再掲】 ○農林水産業と連携した特産品、飲食施設・体験施設等の開発(→③参照)
視点⑤：つなぐ・伝える(シティ・プロモーション)		
<p>▲会社があっても募集があることが知られていない</p> <p>▲求人はあっても人が集まらない(知らない)</p> <p>▲市内で就職しようとする人が少ない</p> <p>⇒■(新潟等で)市内企業が連携して合同説明会等を開催する</p> <p>⇒■ネスパス(表参道にある県のアンテナショップ)を通じて会社紹介を実施</p> <p>⇒■ネスパスからのバス見学ツアーを実施</p> <p>⇒■(親の意見が大きいので)親子で参加する企業説明会を実施</p> <p>⇒■小中学生の職場見学など早いうちから市内企業に触れる機会を用意</p> <p>▲入社してもすぐに辞めるケースが見られる(忙しすぎる等)</p> <p>▲職を転々とする／なかなか再就職ができない若者が増えている</p> <p>⇒■マッチングに力を入れて(改善して)定着率を向上する</p> <p>⇒■会社の中身をきちんと伝える</p> <p>▲受け身な／排他的な地域性がある</p> <p>⇒■意識を変えるようなきっかけや教育が必要</p> <p>▲有名な観光スポットはどこか分からない【再掲】</p> <p>■米粉を使用した特産品は、小麦アレルギーの人には、とてもいいものだが、どこで買えるのか市民でさえ分からない。もっと地域の商店やコンビニ等で販売できないか。</p>	<p>・まず、雇用があることを知られていない点が課題</p> <p>・観光分野等でも同様の課題あり</p> <p>・情報が伝わっている場合でもミスマッチが発生している</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○ターゲットにあわせた情報発信による胎内市の知名度UP、イメージUPと、積極的なマッチングによって、効果の高い営業活動を展開する。</p>	<p>＜雇用全般に関する情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外での展示会・商談会等の販路開拓活動への助成(HP構築や改善も対象に) ○市内小学生～高校生を対象に工場見学・社会科見学・同ツアー等で市内企業PR ○県内高校、大学、専門学校を対象にした求人情報の発信とニーズの把握 ○首都圏の学生(主に出身者)を対象にした企業説明会・見学ツアー <p>＜観光分野に関する情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○首都圏から地域おこし協力隊を募集してまちの魅力づくりとPRを推進 ○県外を対象に近隣市町村と一体となって観光PR ○外国人向けの日本文化体験の展開(陶芸、華道、茶道、剣道など) <p>＜多様な媒体を活用した情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インターネット(動画等)による情報配信(→学校施設等をスタジオに活用) ○PR動画コンテストの開催(→学校のIT活用の事業とも連携) ○合同説明会・技術発表・インターン等による市内企業、農家・生産組織等の情報発信 ○ふるさと納税をきっかけにした特産品等のPRと税収の獲得 (←そのために地域資源の掘り起こし、納税手続きの簡略化を実施) <p>＜マッチング＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の就職と自立を支援する地域若者サポートステーションサテライトの運営【再掲】 ・胎内市で農業を始めたい方の就農支援や農業体験の支援を実施【再掲】 ○企業が求める特殊技能を持つ求職者の人材バンクやマッチングの機会の整備

●：良い点、▲：悪い点、■：その他の意見・今後のアイデア等

2. 生活環境に関する【視点／方向性／取組】の叩き台（①～⑤）

視点毎に整理した前回会議の意見 (審議会の意見と区別するため市内PTの意見を明朝体で表す)	今後の方向性(案) (今後の方向性の前提となる考え方を明朝体で表す)	今後の取組(案) (例示した取組案と区別するため胎内市の既存の施策を明朝体で表す)
視点①：生活全般		
<ul style="list-style-type: none"> ■住宅・住環境が大事(市外の就業者を住ませることもできる) ■住居選択は雇用だけが要因ではない ⇒■宅地がないために新発田、聖籠に人が流れている ▲進学先が少ない(外に出て出たままになってしまう) ⇒■首都圏に出た人(胎内で育った/地方が面白そうと考える人)等を取ってきたい ■財政的に無理をして人口を増やすということではなく既存ストック・知恵をうまく活用【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・(企業誘致だけに頼らず)市外の就業者を呼び込むことも考えられるが、現在は住みたい人も外に流れている状況 ・また、進学で外に出た人が出たままになっているのも大きな課題 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化・教育施設をはじめとした多様な施設や住民の人の良さを活かしたコンパクトな暮らしやすい環境づくりを進め、住民が生活を楽しみ、それが人を呼び込むような好循環を生み出す。 	<p style="text-align: center;">(②以降の内容で実現を目指す)</p>
視点②：住宅・宅地		
<ul style="list-style-type: none"> ■住宅・住環境が大事(市外の就業者を住ませることもできる)【再掲】 ▲(同居が減る=新規需要が増えている一方)住宅、宅地の分譲が多くない ▲宅地がないために新発田、聖籠に人が流れている【再掲】 ▲昔はアパートが少なかった。今は増えてきているが途上 ▲1～2人向けの住宅が少ない(アパートができるとすぐ埋まる) ▲家賃が高い(新発田よりアパート家賃が約1万円高い印象) ⇒●しかし、一般的な相場を調べると、新発田市と比較して1人暮らし向けで1万円、ファミリー向けで数千円安くなっている ⇒■ニーズにマッチした物件が多くないのではないか ▲生活費が高いと2人目が難しくなる ⇒●土地は安い(月6万で土地付の家が買える/アパートは新しいから高い) ⇒■住宅開発を積極的に実施/支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅が要因の1つとなって新発田や聖籠に人が流れている ・建て方や賃料、築年数等の面で若い人が望むような住宅の供給が十分にできていない可能性がある <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「近居」や「リノベーション」といった新たな潮流を捉えて、若い世代が胎内市に「住みたい」「帰ってきたい」と思った時に受け皿となるような魅力的な住宅・宅地の供給を促進する。 	<p>＜既存住宅の有効活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅リフォームや耐震診断・耐震改修への助成 ・市営住宅370戸、県営住宅54戸等 ○空き地や優良空き家をデータベース化し情報提供 ○市内に住む親と近居・同居する方の住宅取得を支援(改修費等の助成) ○市内工務店や専門家と協働で、若者を惹きつける“格好いいリノベーション(改修)”のモデルをつくり、リフォーム助成とセットで展開 <p>＜新たな宅地や住宅の供給＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内に住む親と近居・同居する方の住宅取得を支援(建築費等の助成) ○子育て世帯等向けに民間による良質な賃貸住宅の供給を促進し、公的賃貸住宅(家賃低廉化の助成)として活用(国の住宅供給に対する支援制度を活用) ○子どもの遊び場等を整備して民間による若い世代向けの住宅開発を誘導
視点③：まちの魅力		
<ul style="list-style-type: none"> ▲日常生活が不便 ▲働く場がないから若者が帰ってこない【再掲】 ⇒●立派な施設がある【再掲】 ⇒■雇用以外の魅力をつくる/若い世代が住みたいと思う環境をつくる ⇒■遊びや買い物などができる場をつくる/よそにない魅力をつくる ⇒■交通アクセスを向上して新潟、新発田のベッドタウンに(市外雇用者を獲得) ■一人暮らし高齢者や高齢夫婦の世帯が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には立派な施設がある一方で、日常生活が不便、進学先が少ないといった課題が指摘されている ・若者を惹きつける魅力づくりの重要性が指摘されている ・地域には高齢者だけの世帯が多く、健康寿命の延伸やコミュニティでの支え合いなどもまちの魅力につながる1つの要素か <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な機能を確保した上で、“住む場所”としての魅力を高め、あらゆる世代が安心していきいき暮らせる魅力的なまちを実現する。 	<p>＜生活インフラの維持・改善＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中条駅西口周辺整備 ・デマンドタクシーの運行等 ・防犯灯や水防設備の整備等の安全安心のまちづくり ○地域の生活サービスを支える小さな拠点の形成/拠点を中心とした集住化の促進 ○立地適正化計画に基づくコンパクトシティの形成 ○新発田市等との広域連携を進め圏域内で高度医療機能や商業機能等の維持を図る(医師の派遣や配達サービスにより圏域全体をカバー/定住自立圏) ○汲み取り式トイレのゼロ化(公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽等整備) <p>＜将来も安心して暮らし続けられる環境づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支え合い体制づくり、老人クラブ活動、地域介護予防活動の支援 ・高齢者大学等の市民講座の開催 ○あらゆる年代を対象にした健康相談・病気予防プログラム(相談窓口の設置等) ○高齢者ファッションショー等による生きがいづくり <p>＜魅力的なライフスタイルの実現＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団、総合型スポーツクラブ「わくわくたいない」の活動助成 ・各種スポーツ施設や公園、児童遊園(体育館・武道館・弓道場、総合グラウンド、山村広場(胎内球場)、黒川多目的広場、海洋センター等) ○学校や企業、スポーツクラブ、文化・教育施設、レジャー施設等と連携したスポーツ・文化活動の推進(→例 キャンプイベントの開催/パラグライダークラブの拡大/企業+市民のスポーツ・文化の同好会→出会いの場にも) ○公共施設等総合管理計画に基づく文化・教育施設、レジャー施設の計画的な改修・集約化

●：良い点、▲：悪い点、■：その他の意見・今後のアイデア等

視点毎に整理した前回会議の意見 (審議会の意見と区別するため庁内PTの意見を明朝体で表す)	今後の方向性(案) (今後の方向性の前提となる考え方を明朝体で表す)	今後の取組(案) (例示した取組案と区別するため胎内市の既存の施策を明朝体で表す)
視点④：つなぐ・伝える(シティ・プロモーション)		
<p>●安全で暮らしやすい</p> <p>●人がいい</p> <p>●景観が良い【再掲】</p> <p>▲受け身な／排他的な地域性がある【再掲】</p> <p>▲田舎のイメージ(「北に行くよりは南へ」という考え方)</p> <p>▲進学先が少ない(外に出て出たままになってしまう)【再掲】</p> <p>⇒■県外に出た学生が胸を張れるまちに</p> <p>⇒■早いうちから(市外へ進学する前から)企業とのマッチングを進める</p> <p>⇒■遊び場のPR等によりイメージアップを図る</p> <p>⇒■子どもの頃からまちの魅力を教え込む</p> <p>⇒●小学生の郷土学習／農家民泊に取り組んでいる【再掲】</p> <p>▲同級生がみんな外に出ているため地元に戻る動機が希薄</p>	<p>・現在は仕事以外に積極的に地元に戻る理由が見出しづらい状況</p> <p>・暮らしやすい、人がいい、景観がいいといったまちの良さをどのように伝えるか／活かしていくかが課題か</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○まちの魅力づくりと話題づくりを実現する住民によるまちづくり活動を積極的に展開し、その内容を市内外へ狙いを絞って確実に届けていく。</p>	<p><新しい取組による魅力と話題づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の案を市民から公募し審査に通ったものに事業費の一部を助成【再掲】 ○弓の名手板額御前に準えて女性を対象にした弓道教室・弓道大会を開催 ○“胎内型リノベーション”など特徴的な施策を立ち上げて話題づくり ○首都圏から地域おこし協力隊を募集してまちの魅力の発掘とPRを推進【再掲】 ○空き家や公共施設等を活用したお試し移住の受入体制の構築 <p><狙いを絞った情報の発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象にした郷土学習／農家民泊の実施 ・各種のお祭り、成人の集い等の開催 ・胎内市を故郷とする各県人会、郷人会との交流(胎内郷人会事業) ・胎内市で農業を始めたい方の就農支援や農業体験の支援を実施【再掲】 ○インターネット(動画等)による情報配信(学校施設等をスタジオに活用)【再掲】 ○ふるさと納税の推進【再掲】 ○移住相談窓口の開設(就農支援窓口を拡大など)

●：良い点、▲：悪い点、■：その他の意見・今後のアイディア等

3. 子育て環境に関する【視点／方向性／取組】の叩き台（①～⑥）

視点毎に整理した前回会議の意見 (審議会の意見と区別するため市内PTの意見を明朝体で表す)	今後の方向性(案) (今後の方向性の前提となる考え方を明朝体で表す)	今後の取組(案) (例示した取組案と区別するため胎内市の既存の施策を明朝体で表す)
視点①：子育て全般		
<ul style="list-style-type: none"> ■雇用と子育て環境が居住地選択の要因 ■人の動きは子どもが中心 ■(人口問題を考える上で)子育て環境は重要である ■結婚、出産も収入(雇用)の影響が大きい ■財政的に無理をして人口を増やすということではなく既存ストック・知恵をうまく活用【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代は結婚したい、子どもが2人欲しいという希望を持っているが、実際には出生率が1.5近くまで減少 ・結婚、子育てに対するハードルや責任感が高まっているのが背景か <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親世代のワーク・ライフ・バランスと子世代の明るい将来を実現することを目標に、切れ目のない支援と結婚・出産・子育てを応援する社会の構築を進め、30年かけて低下した合計特殊出生率を30年かけてもとの水準(約2.1)まで高める。 	<p>(②以降の内容で実現を目指す)</p>
視点②：結婚・出産		
<ul style="list-style-type: none"> ▲出会いの場がない ▲産科がない(新発田市等市外に行かざるを得ない) ▲産科がない ▲お金の不安から結婚、出産に二の足を踏んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(全国的な傾向として)未婚率の上昇や晩婚化が進行 ・背景には物理的なハードルと心理的なハードルがありそう <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「案ずるよりも産むが易し」の精神で、結婚がしたくても良い相手との出会いがないシングルや結婚・出産に躊躇するカップルの背中を押すような支援に取り組む。 	<p><出会いづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たいたい婚活プロジェクト」(ブライダルアドバイザーが結婚相談や情報提供等のサポート、出会いを求めている方達の情報収集等を実施) ・若者交流事業 ○市内飲食店組合と連携して出会いの場となる街コン等のイベントを開催する ○新たに企画するイベントや市内のレジャー施設に近隣市町村の若者を呼び込む <p><安心して出産できる環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の医療施設を維持するための費用の負担(中条中央病院、休日診療所、黒川診療所) ○産婦人科医・助産師等の確保 <p><結婚・出産を決心する後押し></p> <ul style="list-style-type: none"> ○結婚祝い金の交付(一定年数以上定住する意志がある夫婦1組につき2~3万円) ○ベストファーザー・ベストマザー・ベストファミリー等を選考・表彰 (→頑張る既婚者の奨励/未婚者には結婚や子育てが良いものだとアピール)
視点③：幼児保育		
<ul style="list-style-type: none"> ●4月1日時点で待機児童ゼロ ▲ただし、年度の途中では入園を断られることがある ▲親が近くにいない転勤族へのサポートが不足している(施策情報が伝わっていない) ▲子育てのしやすさ(保育料無料という話題)から聖籠町に人が流れている ▲聖籠町は保育料が無料という話題で人気を集めている(ただし、保育期間が終わると出て行く人もいよう) ⇒■長時間保育など柔軟な対応を売りにする ⇒■保育園だけでなく学校、遊び場など総合的な対策が必要 ▲通える距離にはあるが、小児科が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月1日時点で待機児童ゼロなど誇れるところもあるが、前回の会議では多くの課題が指摘された ・それでもニーズに対応し切れていない/他と比べてもう一歩/正しい情報が伝わっていない点などが原因か <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○より多くの子育て世帯に、緊急時の対応や精神的なサポートなどより手厚い支援を提供し、「子育てが楽しい」「もう1人子どもが欲しい」と思えるような環境を整備する。 	<p><安心して保育ができる・就労が続けられる環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園8か所(市立4、私立4)、認定こども園2か所(市立1、私立1) (一時預かりは市内6か所の園、休日保育は市内2か所の園で実施中) (市立保育園の送迎バスの運行) ・子育て講座や研修会、親子の交流の場の開催(子育て支援センター6か所) ・乳幼児健診の実施(健診にあわせてブックスタート(4か月、1歳6か月)の実施) ○専門職の拡充と連携を進めて子育てをバックアップ(ファミリーサポート事業) ○市内企業と協力して育児休暇や再雇用の促進、企業内託児所の整備等を実現 <p><緊急時や休日等のサポートの充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かりや病院の付添等を会員同士で支え合うファミリーサポートセンターの運営(生後3か月~小学校6年生まで) ・市内の医療施設を維持するための費用の負担【再掲】 ・外出支援となる「赤ちゃんの駅」(授乳やオムツ交換の場の提供/20か所)の設置 ○既存の保育園等や民間企業と協力して病児・病後児保育を実現 ○早期の職場復帰を支援する求職中や年度途中でも入りやすい保育園の実現 ○小児科医の確保 ○共働きの世帯等を主対象にした休日の遊び場として、公園・レジャー施設に授乳やオムツ交換ができる設備、親子の休憩所等を設置

●：良い点、▲：悪い点、■：その他の意見・今後のアイデア等

視点毎に整理した前回会議の意見 (審議会の意見と区別するため市内PTの意見を明朝体で表す)	今後の方向性(案) (今後の方向性の前提となる考え方を明朝体で表す)	今後の取組(案) (例示した取組案と区別するため胎内市の既存の施策を明朝体で表す)
視点④：児童福祉・教育		
<p>▲小中学生の人数が激減している</p> <p>▲放課後の遊び相手がいないために市外に出る人もいる</p> <p>▲遊び場が少ない(市の公園は点在しているなど分かりづらい。公園は新潟や新発田が充実しているように見える)</p> <p>■保育園だけでなく学校、遊び場など総合的な対策が必要【再掲】</p> <p>⇒■身近な公園を活用する(情報の見える化)</p> <p>⇒■活用できる施設をPRする</p> <p>▲進学先が少ない(外に出て出たままになってしまう)【再掲】</p> <p>⇒●開志国際高校には外からも人が来ている</p> <p>⇒■特徴的な学校を切り口に外から人を獲得する</p> <p>●いじめはあまり聞かない</p>	<p>・以下のような優れた環境を有している</p> <p>ー公園やスポーツ施設、文化・教育施設等の環境が充実</p> <p>ーいじめはあまり聞かない</p> <p>・一方で、子ども的人数が減少し、近くに学校がない、遊び相手がいないといった問題が発生している</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○「胎内市で育って良かった」「胎内市で子育てをして良かった」と思えるような、子どもの健やかな成長を支える環境を整備する。</p>	<p><子どもの遊び場づくり(安心して子育てができる・就労が続けられる環境づくり)></p> <p>・なかよしクラブ(放課後児童クラブ・学童保育)の開設(小学生)</p> <p>・スポーツ少年団、総合型スポーツクラブ「わくわくたいない」の活動助成【再掲】</p> <p>・各種スポーツ施設や公園、児童遊園(体育館・武道館・弓道場、総合グラウンド、山村広場(胎内球場)、黒川多目的広場、海洋センター等)【再掲】</p> <p>・学校給食の提供(※親の負担軽減の一環として記載)</p> <p>○学校やスポーツクラブ、文化・教育施設、レジャー施設(合宿)等と連携した/空き店舗等を活用した放課後や夏休み等の子どもの居場所づくり</p> <p><優れた教育環境・特徴的な教育プログラムの提供></p> <p>・小中学校の耐震化、教育用PCの配置、実験・観察設備の整備</p> <p>・文化・教育施設における教育プログラムの提供(公民館、図書館、胎内自然天文館、陶芸研修所、彫刻美術館、郷土文化伝承館、奥山荘歴史の広場等)</p> <p>・小中学校の英語授業、中学生の姉妹都市(米カーボンデール市)への派遣、小学校のスキー授業、英会話教室の利用補助</p> <p>・小学生を対象にした郷土学習/農家民泊の実施【再掲】</p> <p>・米飯給食の推進(胎内産コシヒカリ100%)</p> <p>○市内企業と連携して工場見学・社会科見学・同ツアー等による社会学習を実施</p> <p>○小中一貫校など特徴的な教育環境の研究(→まずは体制づくりか)</p> <p>○高等教育機関の誘致</p>
視点⑤：子育てにかかる費用		
<p>▲お金の不安から結婚、出産に二の足を踏んでいる【再掲】</p> <p>▲生活費が高いと2人目が難しくなる【再掲】</p> <p>▲子育てのしやすさ(保育料無料という話題)から聖籠町に人が流れている【再掲】</p> <p>▲聖籠町は保育料が無料という話題で人気を集めている【再掲】(ただし、保育期間が終わると出て行く人もいるようだ)</p> <p>⇒●平成24年から第3子以降の保育料無料化</p> <p>▲お金の問題で希望の進学(大学等)ができないケースもある</p>	<p>・国等の事業に加えて独自の補助制度を展開している(首都圏に比べれば標準保育料も安い)</p> <p>・特に、出産等にかかる一時的な費用負担や、2人、3人以上の子どもを持つ親の負担軽減は手厚くなっている</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○既存の取組に加えて、地域での支え合い(お金のかからない支援)や進学等の大きな出費に対するサポートを充実させ、将来に対する漠然とした不安の軽減を図る。</p>	<p><出産にかかる金銭的な負担の軽減></p> <p>・出産育児一時金の給付(最大42万円/健康保険事業)</p> <p>・健康母子手当の給付(3人目の出産で10万円、4人目で15万円)</p> <p>・妊婦健診の費用の助成</p> <p>・不妊治療にかかる費用の助成</p> <p><保育にかかる金銭的な負担の軽減></p> <p>・保育料の軽減(一定条件で2人目半額、3人目以降無料(※一定収入以上は半額))</p> <p>・18歳までの医療費の助成(外来自己負担額530円)</p> <p>・児童手当の支給(0~3歳未満:月1.5万円、3歳以上小学校修了前:月1万円(第3子以降月1.5万円)、中学生:月1万円/所得制限あり)</p> <p><その他></p> <p>・チャイルドシート購入費等補助(最大1万円)</p> <p>○既存制度の周知やより良い奨学金の新設により最大の出費の1つ=進学を支援(→継続的に実施することを宣言して第2子、第3子の出産につなげる)</p> <p>(→ふるさと納税などを活用して財源を確保→将来の(ふるさと)納税者に)</p>
視点⑥：つなぐ・伝える(シティ・プロモーション)		
<p>▲親が近くにいない通勤族へのサポートが不足している(施策の情報が伝わっていない)【再掲】</p> <p>⇒■育児サービスをもっとPRすることが必要</p> <p>⇒●「子育て支援ブック」を配布している</p> <p>⇒■相談相手や友達づくりなど親へのサポートが必要</p> <p>⇒●遊び場や友人の紹介を行っている</p>	<p>・良い取組を行っているのにうまく届いていないのでは</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○忙しい親・これから親になる若い世代が、様々な支援制度を活用して充実した結婚・出産・子育て生活を送れるよう、情報の見せ方、届け方を工夫する。</p>	<p><子育て支援に関する情報発信></p> <p>・子育て支援ブックの配布、子育て情報メールの配信、子育て情報誌の発行</p> <p>・子育て支援センターや訪問指導を通じた情報提供、「親子の交流の場」等の紹介</p> <p>○市HP上で複数の事業を束ねたワンストップの情報発信を実施(見やすさ向上)</p> <p>○市外も含めた周辺の産科等医療機関、企業等に子育て支援ブックなどを配布(子どもが生まれる前から/届きにくい層に確実に情報を届ける)</p> <p>○保育士や教師に各種制度の講習を行い親と行政とのパイプ役をお願い</p> <p>○“××無料”など特徴的な施策を立ち上げて話題づくり</p>

●：良い点、▲：悪い点、■：その他の意見・今後のアイデア等

4. 施策の検討シート

◇ 「雇用環境」「生活環境」「子育て環境」のテーマ毎に、次の4項目について検討をお願いします。

<雇用環境>

項目	ご意見（検討した内容）	項目	ご意見（検討した内容）
①足りない視点（分野）はないか		③他に必要な／やってみたい取組はないか	
②方向性は妥当か （他に書いておくべき内容はないか）		④特に良い視点／優先的に取り組むべき 内容は何か	

<生活環境>

項目	ご意見（検討した内容）	項目	ご意見（検討した内容）
①足りない視点（分野）はないか		③他に必要な／やってみたい取組はないか	
②方向性は妥当か （他に書いておくべき内容はないか）		④特に良い視点／優先的に取り組むべき 内容は何か	

<子育て環境>

項目	ご意見（検討した内容）	項目	ご意見（検討した内容）
①足りない視点（分野）はないか		③他に必要な／やってみたい取組はないか	
②方向性は妥当か （他に書いておくべき内容はないか）		④特に良い視点／優先的に取り組むべき 内容は何か	